



感染症とたたかう

発行:国立大学法人 長崎大学 監修:長崎大学病院 感染制御教育センター長・教授 泉川 公一

お問い合わせ:長崎大学感染症共同研究拠点 〒852-8521 長崎市文教町1-14 TEL:0120-095-819 FAX:095-819-2960

嘔吐と下痢による脱水症状に要注意 春先～初夏に多い「ロタウイルス感染症」

乳幼児期に多い、ありふれた感染症
しかし、油断は大敵

毎年3月～5月頃に流行する「ロタウイルス」による急性胃腸炎。乳幼児期に多い感染症で、主な症状は嘔吐や水っぽい下痢、発熱、腹痛などです。

小学校入学の頃までには多くの子どもが感染を経験する、ありふれた感染症です。ロタウイルスに対する抗ウイルス薬は開発されていませんが、栄養補給と脱水を防ぐためのこまめな水分補給を心がければ、ほとんどの場合、1週間前後で症状は治まります。ただし、入院が必要な重度の脱水症に陥ったり、けいれんを起こしたり、まれに脳症など重い合併症になったりするため、油断は禁物です。お子さんが保育園などで感染し、家族全員にうつす——といったケースも珍しくありません。

世界規模の統計で胃や腸の感染症による死亡者数をみると、コレラや赤痢で亡くなる人数を上回る子どもが亡くなっています。もし、お子さんに激しい下痢や嘔吐などの症状が現れたら、最寄りの小児科で適切なアドバイスを受けるようにしてください。



ウイルス量が非常に多い感染症
汚物処理には細心の注意を!

ロタウイルスの怖さは、ウイルス量の多さと、感染力の強さです。わずか1グラムの感染者の下痢便に、数千億個ものウイルスが含まれていることもあります。そのため、お子さんの下痢便を始末した後にしっかり手洗いしたつもりでも、ウイルスを完全に洗い流すことが難しいのです。

また、ロタウイルスは「エンベロープ」と呼ばれる脂質性の膜をもたないウイルスのため、熱や消毒用アルコールに強いという特徴があります。ウイルス量も多いため、手指用のアルコール消毒液を使っても殺菌しきれないウイルスが、爪の間などに億単位で残ってしまうことがあります。また、ロタウイルスは感染力が強く、数十個が口に入るだけで感染します。お子さんの下痢便や嘔吐物を処理する際は、使い捨てのビニール手袋とマスクを着用するなどしてください。

汚物を拭き取った後も、床面などには大量のウイルスが残ります。そこで、塩素系漂白剤を50～100倍に薄めた消毒液をたっぷり含ませたペーパータオルをしばらくかぶせておくとよいでしょう。汚物を拭き取ったペーパータオル等はビニール袋に入れ、口をしっかりと縛って室外に出してください。